

平成26年度 決算状況報告 一般会計

平成26年度一般会計の決算額は、収入298億4,199万円、支出290億1,119万円でした。そのうち平成27年度へ事業を繰り越して使う資金を差し引いた実質収支は、6億9,585万円の黒字決算となりました。財政調整基金への積立てや市債残高の削減を着実にやったことで、各財政指標も改善した結果となりました。

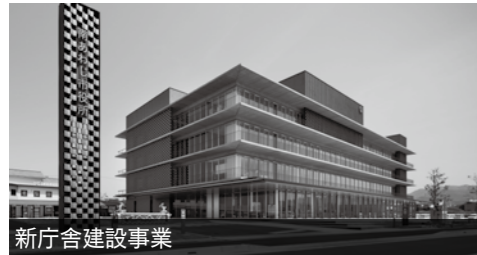
平成27年度から5年間をかけて普通交付税が段階的に縮減し、平成31年度をもって合併による特例期間が終了するため、将来の財源不足に備え、今後も健全財政に努めていきます。

図財政課 ☎43-5209

市民一人当たりに使った
お金の換算すると・・・

(※ 26年度末住民基本台帳 人口49,544人で算出)

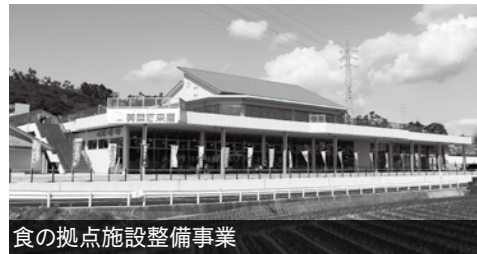
58万5,564円



新庁舎建設事業

▲総務費 21億17万円

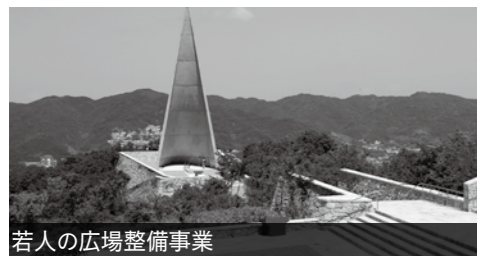
平成27年3月1日に竣工、平成27年4月6日より業務を開始しました。



食の拠点施設整備事業

▲農林水産業費 10億5,434万円

あわじ島まるごと食の拠点施設が完成し、平成27年3月21日にグランドオープンしました。



若人の広場整備事業

▲土木費 9億345万円

戦没学徒慰霊塔のある若人の広場を都市公園として整備し、平成27年3月21日供用開始しました。



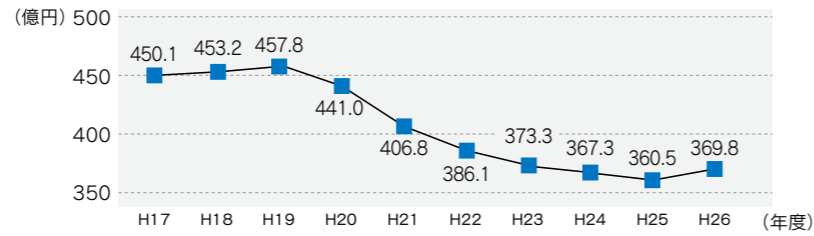
臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金

▲民生費 1億9,828万円

消費税率上げの影響緩和・消費の下支えをするため、子育て世帯及び低所得者に対して臨時的な給付金を支給しました。

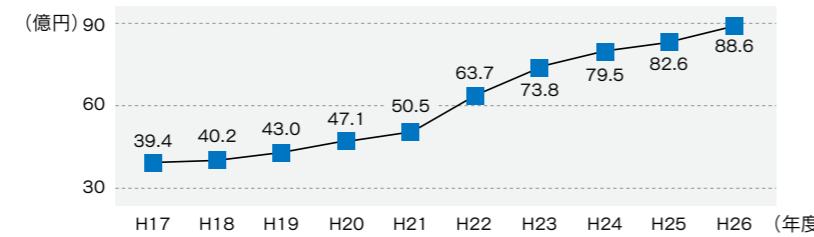
市債(借金)残高の状況

	26年度末	市民1人当たり
一般会計市債残高	369億7,501万円	74万6,300円



基金(貯金)残高の状況

	26年度末	市民1人当たり
一般会計基金残高	88億6,089万円	17万8,800円



市税の収入状況

区分	収入額	市民1人当たり
市民税	21億7,545万円	4万3,900円
固定資産税	29億7,417万円	6万円
軽自動車税	1億7,007万円	3,400円
市たばこ税	3億7,105万円	7,500円
入湯税	4,927万円	1,000円
合計	57億4,001万円	11万5,800円

この決算状況を「月収30万円の家計」に例えると・・・

収入		支出	
給与	30万円 (-6,000円)	食費 (人件費)	6万1,700円 (-600円)
うち基本給 (市税など)	25万8,200円 (-2,200円)	医療費 (扶助費)	5万5,800円 (+3,500円)
諸手当 (特別地方交付税、使用料など)	4万1,800円 (-3,800円)	ローンの返済 (公債費)	8万2,000円 (+2,300円)
前月からの繰越金 (繰越金)	1万9,300円 (+6,500円)	光熱水費や通信費など (物件費)	4万9,400円 (-1,600円)
親からの援助 (国・県支出金)	7万7,200円 (+1万2,300円)	家・車・電化製品の修理や買換 (維持補修費、普通建設事業費)	10万9,200円 (+5万2,100円)
銀行からの借入 (市債)	8万6,800円 (+2万9,200円)	交際費・子どもへの仕送り (補助費、繰出金など)	10万3,900円 (-1万2,600円)
貯金の取り崩し (基金繰入金)	1,600円 (-7,500円)	貯金 (積立金)	1万1,300円 (-2,900円)
計	48万4,900円 (+3万4,500円)	計	47万1,500円 (+4万2,000円)

毎月の出費が約47万円。月収30万円では足りません。不足分(約17万円)を親からの援助や銀行からの借入、貯金の取り崩しでまかなっています。

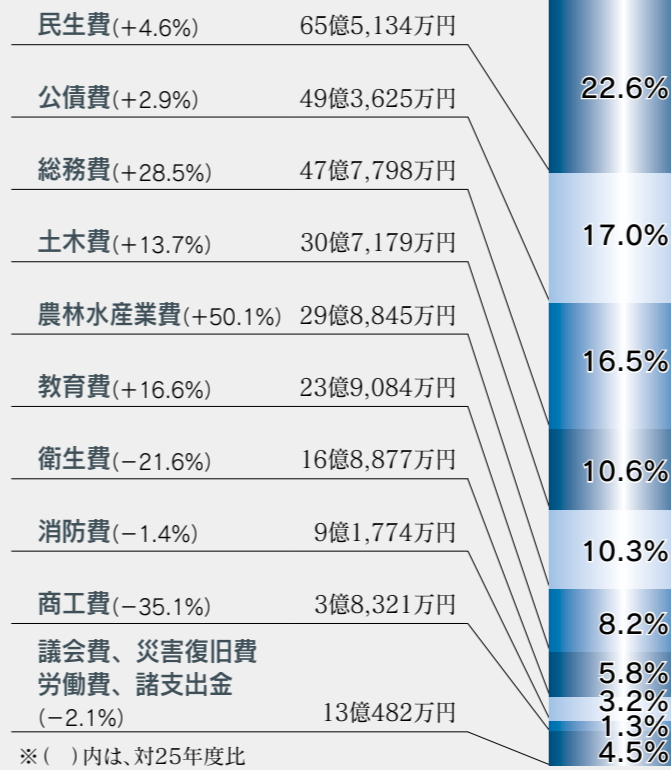
来月への繰越金
1万3,400円(-5,700円)

南あわじ市41・9%

これが多いと一般家庭のエンゲル係数が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。

支出 290億1,119万円

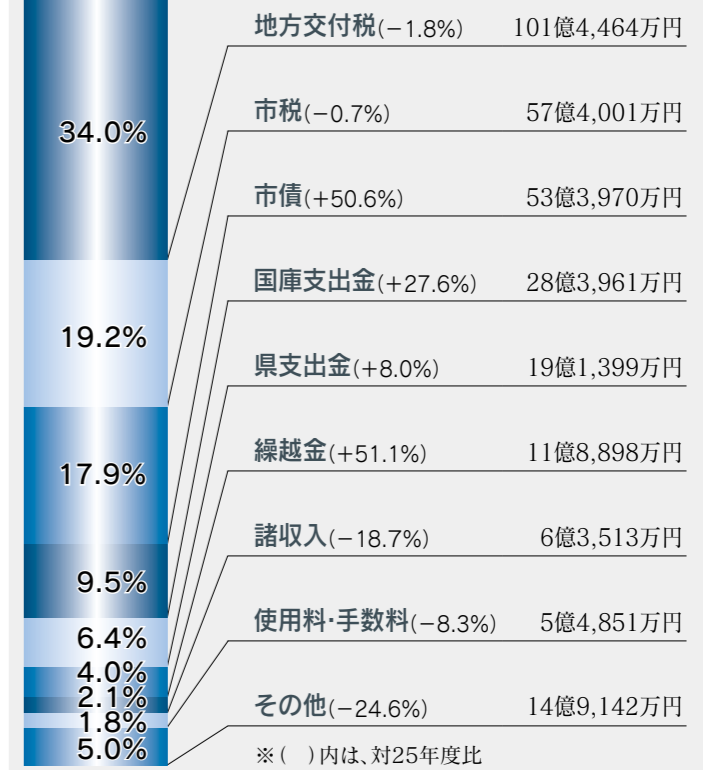
(25年度比+9.3%)



※()内は、対25年度比

収入 298億4,199万円

(25年度比+7.7%)



※()内は、対25年度比

健全化判断比率(速報)

指標	南あわじ市		早期健全化基準	財政再生基準
	26年度	25年度		
実質赤字比率 (普通会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	12.65	20.00
連結実質赤字比率 (全ての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	17.65	30.00
実質公債費比率 (借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度を見る比率)	13.6	14.3	25.0	35.0
将来負担比率 (市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度を見る比率)	131.7	134.0	350.0	-

※赤字が生じない場合は、「-」と表示

資金不足比率(速報)

指標	南あわじ市		経営健全化基準	備考
	26年度	25年度		
資金不足比率 (企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る比率)	-	-	20.0	会計ごとに算定

※資金不足が生じない場合は、「-」と表示

26年度の収入は、消費税率が引き上げられたことによる地方消費税交付金の増加、国の経済対策として創設された「がんばる地域交付金」及び食の拠点施設整備にかかる「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」などの国庫支出金の増加等により、昨年度に比べ7.7%のプラスとなりました。支出面では、平成25年度の繰り越し事業を含め新庁舎建設事業や若人の広場整備事業、食の拠点施設整備事業など大規模な施設整備を行いました。また、消費税率上げの影響を緩和するため、臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金を給付しました。

そのほか、小中学校の施設整備事業、また中学校の空調設備整備に着手し、学習環境の改善を行い、支出総額は昨年度に比べ9.3%のプラスとなりました。市債において、定時償還に加え8億9,647万円の繰上償還を実施しましたが、大規模な施設整備に伴い発行が増加したため、残高は前年度より9億2,401万円増加しています。